

町医者だより

平成21年11月号

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

ヤソビル本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

1分ミスタードーナツ並び

スーパーつるかめ(旧フレック)2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

輸入新型インフルエンザワクチンについて

新型インフルエンザワクチン接種がはじまりました。先月に引き続き新型インフルエンザワクチン、特にこれから輸入されるワクチンについて考察いたします

国内産新型インフルエンザ予防接種と死亡例

国内産新型インフルエンザ予防接種後に亡くなられた方が二十数名にのぼるが、検討委員会での協議で、「予防接種との因果関係に乏しい」との結論を出した、と数日前に報道されました。2003年に天然痘予防接種キャンペーンが米国で始まったときに心筋梗塞など心臓由来の死亡が増えたとの報告がありました(JAMA 290:31-34, 2003)。新しい予防接種が始まる時いかなる副反応が出るか分かりません。特に重篤な副反応は10万人、100万人規模の接種で初めて出て来る事も多く、なぜ国が性急に結論付けるのか疑問です。心筋梗塞の発症はどうだったのか、高齢者ではワクチン接種前後に心電図をとる必要はないのか、あるいは過去の事例さらには現在世界中で進行中の新型インフルエンザ予防接種に関して起こっている懸念すべき事例がないのかなど接種を担当する医師や国民に説明すべきです。

輸入新型インフルエンザワクチン

日本に輸入されるワクチンはアジュバントという免疫賦活剤が含まれています。このアジュバントが入るとワクチンに含まれるウイルス産物(抗原量)を減らしても効率よくマクロファージや樹状細胞などBリンパ球(抗体産生細胞)に抗原を提示する細胞に取り込まれ、結果として高い抗体産生を確保できます。実際日本が輸入予定のグラクソスミスクライン(GSK)のワクチンにはウイルス産物量が3.8マイクログラムと通常量の約25%しか含まれていません。水酸化アルミニウムは以前からヒトの予防接種のアジュバントとして使用されてきましたがアジュバントとしての働きが今一つでGSKはAS03、もう一つのワクチン製造製薬会社であるノバルティスがMF59という新しいアジュバントを使用しています。

アジュバントに対する懸念—何ゆえにGSKを選択—

GSKのAS03とノバルティスのMF59は油滴が水に溶けているoil-in-waterエマルジョンです。MF59アジュバントは1997年から65歳以上の高齢者用の季節性インフルエンザワクチンとしてすでに世界中で使用されており、その安全性は証明されています。また11月16日のVaccine誌(27:6959-65)にMF65アジュバント新型インフルエンザワクチン接種者2万人の解析結果が出ており、この規模では重篤な副反応はないと報告しています。一方のAS03に関してはLancetに載っている50人規模の報告(370:580-589, 2007)のみでこれは主に抗体産生についての報告で副反応をみたものではありません。GSKのホームページを見ると日本などで臨床試験が行われているとのことですが、あまりにも情報が少なすぎます。私個人の考えでは、とりあえず接種対象者は子供も1回接種としてできるだけ多くの国民が国内産ワクチンを接種できるようにするかアジュバントなしのワクチン輸入(GSKも今月から生産を開始しています)も検討すべきではないでしょうか。